

第2回 「がんばれ！」子どもたちが応援する発電所  
共同保育所ごたごた荘（練馬区東大泉）  
運営：特定非営利活動法人 ごたごた荘

---

「共同保育所ごたごた荘」には、NPO 法人元気力発電所の第4号機「ピッピ」が設置されています。ごたごた荘の名は、元気な女の子、ピッピが大活躍する物語『長くつしたのピッピ』で、ピッピが暮らす家の名前から。発電所には、主人公の名前がついています！

---

<データ>

- 設置年月 2011年1月
- 設置容量 2.31kW (210w × 11枚)
- メーカー 東芝製
- システム 単結晶 3直列2並列、5直列1並列
- 屋根タイプ 木造2階建 寄せ棟
- 方位・角度 南5枚、東3枚、西3枚
- 傾斜角 24.2度

畑も残る、静かな住宅街。2010年、現在の場所に移転してくる際に、元気力発電所（当時はエコメッセ練馬）から提案を受け、設置を決めたそうです。名前は、募集した中から子どもたちに相談したところ、圧倒的な支持を集めて『ピッピ』に決まったとのこと。



**南**側から。5枚のパネルが載っています。移転は2010年3月で、その年のうちに設置工事が行われ、2011年1月から稼働しました。



**屋**根の上のピッピにつながる階段には、発電所を紹介する看板も。ピッピと一緒に写真を撮ってほしいとお願いしたら、元気な子どもたちが協力してくれました。



「**使**用量より発電する量が多くなると、オレンジの灯りが『緑色』になるんですよ」とお話を聞いていると、子どもたちが「ピピ頑張れ!」「お日様頑張れ!」と元気に応援。ムダな電気を消すと「緑色」になる経験もしているので、節電の意識も身に付いたそうです。



**N**PO 法人ごたごた荘、代表理事の遠藤美保子さん。ごたごた荘は、1982年の設立以来、預けるだけでなく、親が運営や作業に参加しながら、保育者とともに育てていく保育を実践しています。自然エネルギーの発電所となったことで、「今の子どもたちにとっては、電気があるのは当たり前ですが、それが目に見える形になったのは、いいことだと思いますね」と遠藤さん。





**設**置を記念して、2011年1月に行われた「点灯式」の様子。エコメッセ練馬（当時）の方々とともに、ピッピの電気で灯りを点けてお祝いしました。



#### <取材メモ>

##### ◆設置のきっかけ

ごたごた荘は、何度か移転をしてきましたが、東大泉の建物に移るのをきっかけに、設置されました。自然エネルギーには良いイメージをもっていたため、エコメッセ練馬からの提案を前向きに検討したそうです。

##### ◆契約するまで

設置の検討を始めた時、一人の親御さんから、機器から電磁波が出るのではないかという不安の声が出たため、エコメッセ練馬に問い合わせるとともに、独自に調査。すでに自宅で太陽光発電を行っていた卒園生の家で、機器の周辺を測定したところ、電子レンジの方が高いことがわかったそうです。一方で、分電盤の周囲の電磁波は少し高まることがわかったため、分電盤を子どもの近くに置かなければ、安心して使えることがわかり、設置を決めたといいます。

##### ◆設置してみても

2011年1月に稼働をスタートし、3月に東日本大震災が起きました。

「3.11を経験して『いざとなったら、この電気が使えるんだね』と、改めてピッピを設置した意味を、みんなで噛み締めました」と遠藤さん。

売電は、1月に3千円台～8千円台くらいの幅があり、「真夏より、前後の5月や9月、10月の方が高かったりします。気温や日照時間の関係もあるのでしょうか。新しい発見もありますよ」と、日々、楽しんで利用している様子が伝わってきました。

### <取材を終えて>

設置を検討する際に、不安に思った「電磁波」のことを、親御さんや子どもたち、卒園生まで、みんなを巻き込んで、納得するまで調べてから設置したところが、とても重要だと感じました。みんなが自分のこととして保育に参加するごたごた荘らしい取り組みだと思います。だからこそ、その後も、納得して、楽しく発電所と歩いていくことができているのではないのでしょうか。

そんな大人たちのお陰で、ごたごた荘の子どもたちは、当たり前前に自然エネルギーと暮らしています。こういう子どもが増えていくといいですね。